

種の概要

東北から九州にかけて分布し、内湾奥部や河口干潟の、潮間帯の砂泥や泥に浅く埋もれた転石裏面などに付着する。殻長10mmほどの細い小判形をしている。殻は白や黄色などの半透明で光沢があり、微小な顆粒が表面にある。生時は小疣状・棘状突起が密にある灰色の外殻膜に覆われている。

主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
			○	○			○

県内分布

赤穂市、姫路市、たつの市、南あわじ市

県内における生息状況及びその他特記事項

ランク変更なし。県内では、播磨西部の中型河川、淡路島南部の内湾環境下の砂泥干潟で見つかっている。生息地では複数個体が1つの石裏で見つかるが、それが複数発見あるいは、後の調査で見つかることはなく、持続性に乏しい。

保護上の留意点

河口にある泥干潟の半ば埋もれた転石に生息し、一見、還元的な環境であるが、適度に石裏に空隙がある酸化部が必要と考えられる。このような微環境を特定して保全するのは困難であるが、既知産地においては現状維持に努め、護岸工事や埋め立てを行わないよう広い範囲で干潟を保全する。



写真提供：川淵千尋



写真提供：増田修